

図書館情報メディア研究科

Graduate School of Library, Information and Media Studies

博士後期課程

図書館情報メディア専攻

Doctoral Program in Library, Information and Media Studies

博士(図書館情報学) ■

Doctor of Philosophy in Library and Information Studies

博士(情報学) ■ Doctor of Philosophy in Informatics

博士前期課程

図書館情報メディア専攻

Master's Program in Library, Information and Media Studies

修士(図書館情報学) ■

Master of Science in Library and Information Studies

修士(情報学) ■ Master of Science in Informatics

図書館情報メディア研究科

人材養成目的

情報メディアによる社会の知識共有とその仕組みに係る研究を発展させ、新しい時代に向かって社会をリードする人材を養成します。具体的には、研究者、大学教員や高度専門職業人を育成します。

教育目標

博士後期課程

知識情報社会のフロンティアを切り拓くことのできる研究者や、図書館情報メディア分野における最先端の研究と次世代をになう人材の育成に積極的に取り組む大学教員、および高い見識と高度な専門性を備えて国際的に活躍できる高度専門職業人の養成を教育の目標とします。

博士前期課程

情報産業や図書館など情報提供サービスの実務においてリーダーシップを発揮する高度専門職業人として、理論と実践および創造力の調和のとれた人材、急速な発展をとげつつある分野にあって将来の動向を見通せる人材、研究者として必要な専門知識・技術を身につけ博士後期課程に進学する人材を養成することを教育の目標とします。

教育課程編成・実施の方針

博士後期課程

各自の研究テーマを発展・深耕することで、理論的な展開力、洞察力、独創性、創造性、グローバルな視点を獲得する研究重視のカリキュラムとしています。

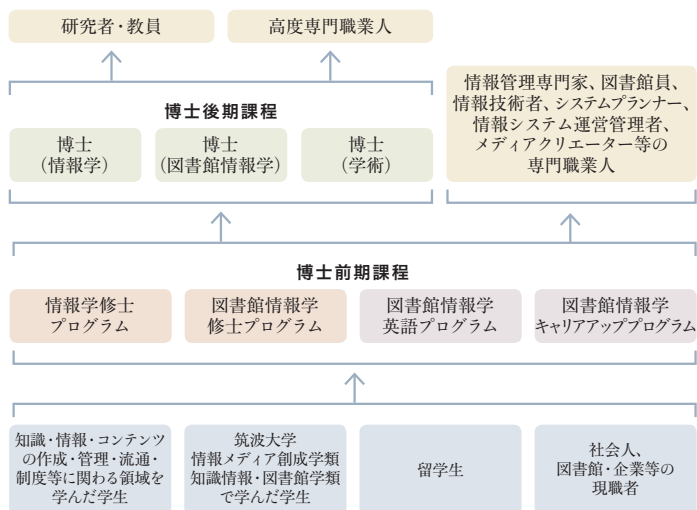
博士前期課程

教育課程の体系化という観点から、修士(情報学)と修士(図書館情報学)の2つの学位に対応したプログラムを提供します。学位プログラムの考えにもとづくカリキュラムを編成することで、教育の実質化を進めています。厳選された科目群によるコースワーク中心の課程です。修士(図書館情報学)では、さらに留学生を対象に図書館情報学英語プログラムと現職者を対象に図書館情報学キャリアアッププログラムを編成しています。

教育の質の保証

■定められた講義科目、演習科目の履修と、研究テーマに関する中間発表、最終発表を修了の要件としています。博士前期課程においては、自プログラムの科目を履修するだけでなく、他プログラム、他研究科等の科目を8単位まで修了要件に含めていることで、自らの関心に応じた幅広い学びを保証しています。

■将来大学教員をめざす学生の教育力を育成するため、ティーチング・フェロー制度を導入し、採用された学生には、研究科FDの一環として、授業改善のための研修を実施しています。



図書館情報メディア 専攻

Doctoral Program in Library,
Information and Media Studies

修了者の進路

教育・研究機関
滋賀県立大学、聖徳大学
官庁・自治体
アジア経済研究所
博士特別研究員
筑波大学
その他
職務復帰、帰国

博士(図書館情報学)

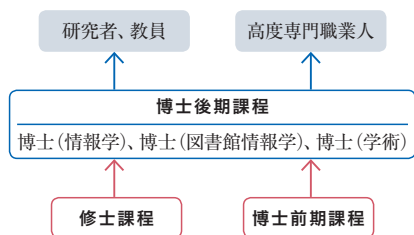
■ Doctor of Philosophy in Library and Information Studies

博士(情報学)

■ Doctor of Philosophy in Informatics

人材養成目的

知識情報社会のフロンティアを切り拓くことのできる国際的に活躍する研究者や高度専門職業人、さらには次世代の人材を育成することに秀でた教員等を養成します。



求める人材

21世紀の知識情報社会について深い関心を持ち、それに貢献し、リードしていけるような人材を求めます。そのため図書館情報学・情報学・情報工学など情報関連分野についての深い素養と知識を有し、それを生かした学術的・技術的・社会的意義の高い研究テーマを見出し、研究を遂行していく能力と意欲を有し、さらに成果を内外に発信していくための語学力・コミュニケーション能力を有する学生を歓迎します。

博士（図書館情報学）

Doctor of Philosophy in Library and Information Studies

学位授与の方針

学位は、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を充足した上で、図書館情報学分野において、次の能力を有することが最終試験において認定された者に授与されます。

- 自立的に課題を発見し、展開する理論的な思考力
- 独創的な研究を生み出す柔軟な発想力と深い洞察力
- 研究を通して社会に貢献する交渉力と高い倫理観
- 情報メディアの収集・蓄積・提供サービスへの幅広い理解力
- グローバルな視点から知識情報社会のフロンティアを切り開く力
- 図書館情報学分野における人材育成のための教育力

教育課程編成・実施の方針

講義科目を4単位以上、情報メディア特別演習を6単位以上修得したうえで、博士論文を作成します。博士の学位とは、研究者として自立して研究する能力を有している者に授与される学位であることを鑑み、博士（図書館情報学）の学位が授与されるために、英語もしくは日本語による図書館情報学に係る学位論文の提出を義務付け、その学位論文には適切な研究方法を用いた新たな知見の記述を求めます。

研究指導担当教員および副研究指導担当教員の下で研究を推進する過程において、博士（図書館情報学）では特に「柔軟な発想力と深い洞察力」、「情報メディアの収集・蓄積・提供サービスへの幅広い理解力」、「グローバルな視点から知識情報社会のフロンティアを切り開く力」に重点化して、学位授与の方針に掲げた6つの能力を実践的に修得します。

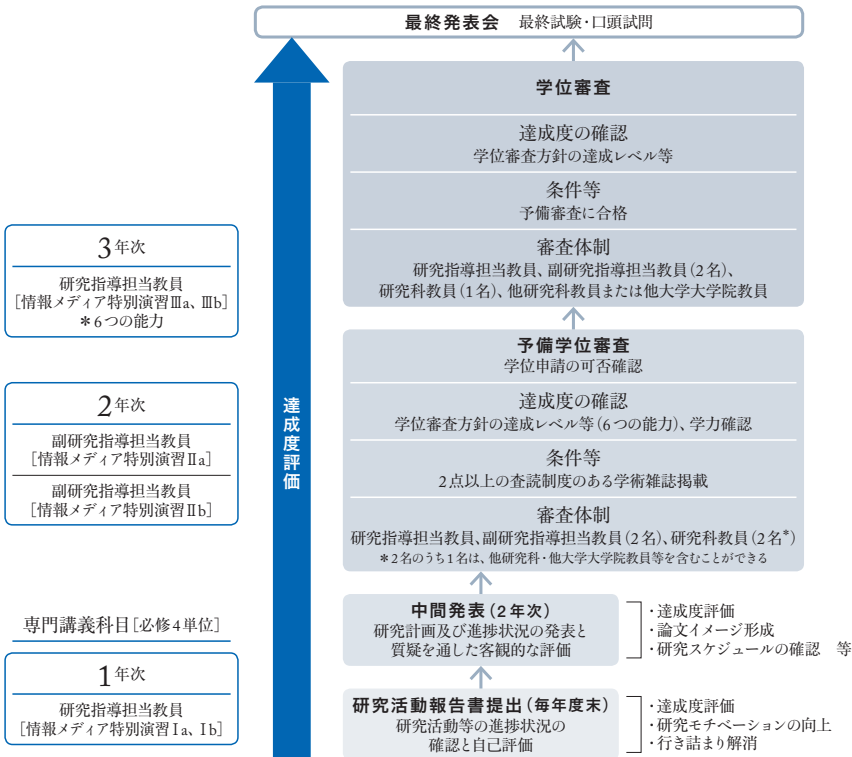
博士（図書館情報学）

達成度評価

毎年度末に研究成果報告書を提出して自己評価すると共に、定められた時期に開催される中間発表会での発表によって達成状況を客観的に評価します。最終発表会では、公開による成果の発表を通じて図書館情報学分野において必要な思考力、発想力、洞察力、交渉力、理解力、フロンティアを切り拓く力を総合的に評価します。さらに最終試験では、複数の教員による口頭試験によって上記項目に加え、倫理観や教育力についても博士の学位を授与するにふさわしいレベルに達しているかを審査します。そして、在学期間、取得単位の確認を経て最終的な達成度を評価し、学位授与の可否を決定します。

学位授与の体制など

博士論文のための研究指導は、研究指導担当教員1名と副研究指導担当教員2名で行なう体制になっています。学生は研究指導担当教員から所定の指導を受け、論文の作成とともに中間発表と最終発表を行います。また、毎年度末に研究成果報告書を作成し、研究科長に提出するとともに進捗状況を自己評価します。学位授与の審査は、まず学位論文予備審査委員会の審査を受け、その審査に合格すると、3か月以内に学位論文を提出し、5名以上の教員で構成される学位論文審査委員会によって論文審査と最終試験が行われます。これに合格すると博士(図書館情報学)の学位が授与されます。また、学位論文審査においては、審査委員に学外や他研究科の教員を1名加えて審査の適正化をはかっています。



博士(情報学)

Doctor of Philosophy in Informatics

学位授与の方針

学位は、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を充足した上で、情報学分野において、次の能力を有することが最終試験において認定された者に授与されます。

- 自立的に課題を発見し、展開する理論的な思考力
- 独創的な研究を生み出す柔軟な発想力と深い洞察力
- 研究を通して社会に貢献する創造力と高い倫理観
- 事象を多面的に捉えるための分析手法への幅広い理解力
- グローバルな視点から知識情報社会のフロンティアを切り開く力
- 情報学分野における人材育成のための教育力

教育課程編成・実施の方針

講義科目を4単位以上、情報メディア特別演習を6単位以上修得したうえで、博士論文を作成します。博士の学位とは、研究者として自立して研究する能力を有している者に授与される学位であることを鑑み、博士(情報学)の学位が授与されるために、英語もしくは日本語による情報学に係る学位論文の提出を義務付け、その学位論文には適切な研究方法を用いた新たな知見の記述を求めます。

研究指導担当教員および副研究指導担当教員の下で研究を推進する過程において、博士(情報学)では特に「理論的な思考力」、「多面的に捉えるための分析手法への幅広い理解力」、「グローバルな視点から知識情報社会のフロンティアを切り開く力」に重点化して、学位授与の方針に掲げた6つの能力を実践的に修得します。

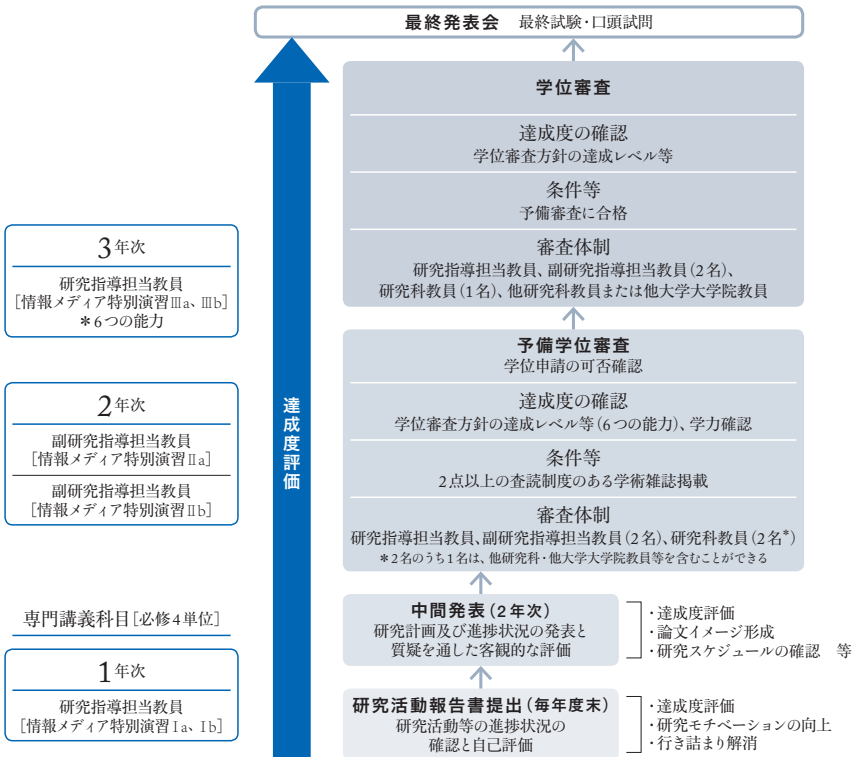
博士（情報学）

達成度評価

毎年度末に研究成果報告書を提出して自己評価すると共に、定められた時期に開催される中間発表会での発表によって達成状況を客観的に評価します。最終発表会では、公開による成果の発表を通じて、情報学分野において必要な思考力、発想力、洞察力、創造力、理解力、フロンティアを切り拓く力を総合的に評価します。さらに最終試験では、複数の教員による口頭試問によって上記項目に加え、倫理観や教育力についても博士の学位を授与するにふさわしいレベルに達しているかを審査します。そして、在学期間、取得単位の確認を経て最終的な達成度を評価し、学位授与の可否を決定します。

学位授与の体制など

博士論文のための研究指導は、研究指導担当教員1名と副研究指導担当教員2名で行なう体制になっています。学生は研究指導担当教員から所定の指導を受け、論文の作成とともに中間発表と最終発表を行います。また、毎年度末に研究成果報告書を作成し、研究科長に提出するとともに進捗状況を自己評価します。学位授与の審査は、まず学位論文予備審査委員会の審査を受け、その審査に合格すると、3か月以内に学位論文を提出し、5名以上の教員で構成される学位論文審査委員会によって論文審査と最終試験が行われます。これに合格すると博士（情報学）の学位が授与されます。また、学位論文審査においては、審査委員に学外や他研究科の教員を1名加えて審査の適正化をはかっています。



図書館情報メディア 専攻

Master's Program in Library,
Information and Media Studies

修士(図書館情報学)

■ Master of Science in Library and Information Studies

修士(情報学)

■ Master of Science in Informatics

人材養成目的

情報産業や図書館など情報提供サービスの実務においてリーダーシップを発揮する高度専門職業人として、理論と実践および創造力の調和のとれた人材、急速な発展をとげつつある分野にあって将来の動向を見通せる人材、研究者として必要な専門知識・技術を身につけて博士後期課程に進学する人材を養成します。

求める人材

21世紀の知識情報社会において、その最先端をいく研究、開発、実務、創作などに関心を持ち、意欲的に取り組む情熱と能力を備えた人材を求めます。そのため図書館情報学・情報学・情報工学などの情報関連分野の基礎を修得し、多様な応用分野についての知識や関心を持つ学生、あるいは他の専門分野を修め、そこに情報分野の知識や技術を適用していくことに関心を持つ学生を歓迎します。

修了者の進路

企業・団体

富士ゼロックス、リクルートホールディングス、凸版印刷、NTTデータ

教育・研究機関

慶応義塾大学

官庁・自治体

特許庁、神奈川県庁、愛知県庁、筑波大学附属図書館

博士課程進学

筑波大学大学院

その他

職務復帰、帰国

修士(図書館情報学)

Master of Science in Library and Information Studies

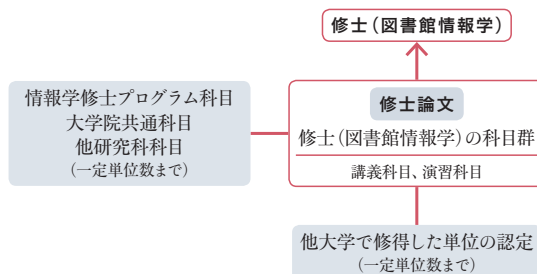
学位授与の方針

学位は、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を充足した上で、図書館情報学分野において、次の能力を有することが最終試験において認定された者に授与されます。

- 情報技術とサービスへの深い理解力
- 高度専門職業人としての高い志と倫理観
- 職務遂行のさまざまな場におけるリーダーシップ力
- 理論と実践の調和のとれた力
- 学際的な分野において将来の動向を見通す力

教育課程編成・実施の方針

図書館情報学修士プログラムの開講科目群のなかから、講義科目を20単位以上、演習科目を10単位以上修得したうえで、修士論文を作成します。演習科目のうち3科目が必修科目となっており、大学院生にとって必要なアカデミック・スキルを獲得します。これらの科目を履修することで、学位授与の方針に示した5つの能力を自然と身につけることができます。また、図書館情報学英語プログラムとの共通開講により多くの科目が隔年で英語開講されています。また、現職者を対象として開講している図書館情報学キャリアアッププログラムの科目を履修することで、実務に関するスキルを身につけることもできます。その外、他研究科等の科目も8単位まで修了要件に含めることができるので、学生は自らの関心に応じた幅広い学びが可能です。



達成度評価

研究指導担当教員の下、修士研究を推進する過程において、「情報技術とサービスへの深い理解力」、「高度専門職業人としての高い志と倫理観」、「職務遂行のさまざまな場におけるリーダーシップ力」、「理論と実践の調和のとれた力」、「学際的な分野において将来の動向を見通す力」など、学位授与の方針に掲げた5つの能力を修得します。その達成のために、毎年度末に研究成果報告書を提出し、自己評価を行うと共に、適切な時期に開催される中間発表会での発表によって達成状況を客観的に評価します。また最終発表会では、複数の教員による口頭試問によって各項目が図書館情報学修士の学位を授与するにふさわしいレベルを越えているかを総合的に審査します。そして、在学期間、取得単位の確認を経て最終的な達成度を評価し、学位授与の可否を判断します。

学位授与の体制など

修士論文のための研究指導は、正副2名の研究指導担当教員が行う体制になっています。学生は所属する学位プログラムごとに研究指導担当教員から所定の指導を受け、論文を作成するとともに中間発表と最終発表を行います。学位授与の審査は、3名の教員によって構成される学位論文審査委員会が論文審査と最終試験に基づいて行い、これに合格すると修士（図書館情報学）の学位が授与されます。また、学位論文審査においては、審査委員に正副の研究指導担当教員以外の教員を1名加えて審査の適正化をはかっています。

修士(情報学)

Master of Science in Informatics

学位授与の方針

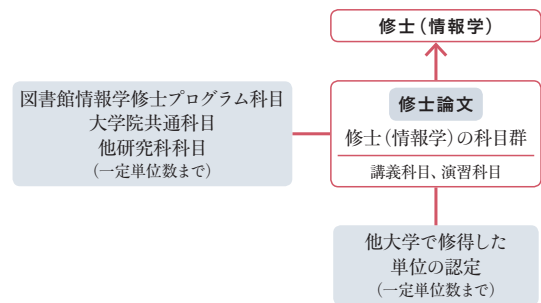
学位は、筑波大学大学院学則で規定する課程の目的を充足した上で、情報学分野において、次の能力を有することが最終試験において認定された者に授与されます。

- 情報技術とサービスへの深い理解力
- 研究者としての高い志と倫理観
- 研究開発のさまざまな場におけるリーダーシップ力
- 理論と実践の調和のとれた力
- 著しく進歩する分野にあって将来の動向を見通す力

教育課程編成・実施の方針

情報学修士プログラムの開講科目群のなかから、講義科目を20単位以上、演習科目を10単位以上修得したうえで、修士論文を作成します。演習科目のうち3科目が必修科目となっており、大学院生にとって必要なアカデミック・スキルを獲得します。これらの科目を履修することで、学位授与の方針に示した5つの能力を自然と身につけることができます。また、図書館情報学英語プログラムとの共通開講により多くの科目が隔年で英語開講されています。

同一時間帯の複数開講を最低限におさえているので、比較的自由に履修計画を立てやすく、また、他研究科等の科目も8単位まで修了要件に含むことができるので、学生は自らの関心に応じた幅広い学びが可能です。



達成度評価

研究指導担当教員の下、修士研究を推進する過程において、「情報技術とサービスへの深い理解力」、「研究者としての高い志と倫理観」、「研究開発のさまざまな場におけるリーダーシップ力」、「理論と実践の調和のとれた力」、「著しく進歩する分野において将来の動向を見通す力」など、学位授与の方針に掲げた5つの能力を修得します。その達成のために、毎年度末に研究成果報告書を提出し、自己評価を行うと共に、適切な時期に開催される中間発表会での発表によって達成状況を客観的に自己評価します。また最終発表会では、複数の教員による口頭試問によって各項目が情報学修士の学位を授与するにふさわしいレベルを越えているかを総合的に審査します。そして、在学期間、取得単位の確認を経て最終的な達成度を評価し、学位授与の可否を判断します。

学位授与の体制など

修士論文のための研究指導は、正副2名の研究指導担当教員が行う体制になっています。学生は所属する学位プログラムごとに研究指導担当教員から所定の指導を受け、論文を作成するとともに中間発表と最終発表を行います。学位授与の審査は、3名の教員によって構成される学位論文審査委員会が論文審査と最終試験に基づいて行い、これに合格すると修士（情報学）の学位が授与されます。また、学位論文審査においては、審査委員に正副研究指導担当教員以外の教員を1名加えて審査の適正化をはかっています。